




ぶらやみ

認知症と とともに 生きる



浦安市認知症とともに生きる基本条例パンフレット
令和4年7月1日施行

条例に込めた思い

認知症の人の尊厳、思いを大切にする

認知症を「医療や介護のこと」に加え、
生活全般にも目を向けて考える

認知症を「本人、家族のこと」
と考えるのではなく、
「地域全体のこと」として考える

「認知症＝何もわからない、できない」
というイメージを変える
～支えられるだけでなく、支える側としても～

浦安市内の認知症の人、認知症傾向のある人(MCI)は
増えていくことが予測されています。

2021年 約9,000人

→ 2040年 約17,000人 高齢者の約35%

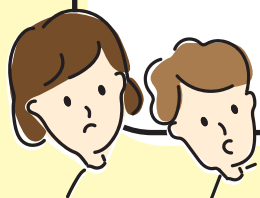
約2倍

朝田隆筑波大学名誉教授の研究より算出

認知症は誰もがなる可能性があります。

認知症になったときに暮らしやすい地域とは？

「自分事」として考えてみませんか。



浦安市で認知症の条例 ができました

浦安市では、認知症の人とその家族を含む誰もが、住み慣れた地域で希望する暮らしを実現できるよう、認知症に関する条例(認知症とともに生きる基本条例)を制定しました。

認知症とともに生きることは？

認知症になった後も、希望する暮らしを周囲の方と共有し、
認知症と上手に付き合いながら自分らしい生活を続けることです。

条例の一部をご紹介します

浦安市が取り組むこと



認知症の人やその家族の
思いの発信を支援する



認知症とともに生きること
についての理解を推進する

認知症の人が地域の中で
生活しやすい環境づくりを推進する

市民の皆さんにお願いしたいこと



心配だな、と思ったときには
周りの人、地域包括支援センター、
かかりつけ医などに早めに相談する



認知症の人やその家族が
安心して暮らせるように、
声をかけ合ったり、見守りあったりする

自分の趣味や大切にしたいことを通じて
社会との関わりを持つ



他にもたくさんの内容が条例に
盛り込まれています！
条例の全文は[こちら](#)>>



認知症のことが気になった時に手に
取る本(利用できるサービスなど)は
[こちら](#)>>



地域で活躍している人がいます

地域のアートサロンで絵の先生を続けているTさん



Tさん: 絵を教えることは、今の生活の中で一番楽しいこと。これからも喜んで行って、一緒にやりたいと思っている。予定を忘れても、サロンの方が電話をかけてくれたり、呼びにきてくれたりして、休まず続けられています。



参加者の方: 認知症は歳をとればみんな当たり前のこと、自然なこととして受け止めています。先生に指導を入れていただくと、絵が生きてくるので、教えてもらえることはありがたいです。



様々な方からのご意見を元に条例をつくりました！

家族より

家族だけで介護するのではなく、相談したり、ちょっと手伝ってもらえる人がいたらいいですね。周囲に伝えるのは勇気がいります。



地域の方より

偏見の目がまだまだたくさんあると思います。地域でカバーする力があれば、本人や家族も安心できると思います。



認知症の本人より

『何もわからないから』と思われて関わられるのは嫌でした。そう思っているんだろうな、ということは感じます。特別な目で見ないでほしいです。

